

これからの大学のトレンドを  
\\ 大学事例から読み解く //

# 大学レポート 2014

教育は時代とともに変化していますが、特に大学教育は、  
時代の変化の波を一番受けやすい場所といえるかもしれません。  
国や企業に近く、国境を越えた大学間の連携や競争もあるためです。  
大学キャンパスで今どんなことが起きていて、これからどんな変化が起きそうか、  
大学全体をトータルに見る視点と、  
個別の大学をつぶさに見る視点とから読み解いていきます。  
お子さんの大学選択や将来の方向性を考える際の参考にしてください。

## 特集：グローバル時代の「大学改革」 — 保護者も「知らない」では済まされない！

### グローバル教育 Global Education

神田外語大学..... p.34

### 教育改革 Educational Reform

大阪経済法科大学 ..... p.36

帝京大学 ..... p.38

デジタルハリウッド大学 ..... p.40

### キャリア教育 Career Education

千葉商科大学..... p.42

東京家政大学..... p.44

東京農業大学..... p.46

# グローバル時代の「大学改革」 —保護者も「知らない」では済まされたい!

晴れて高校に入学した喜びもつかの間、心の中ではお子さんに早くも3年後の大学受験に向けて勉強をしっかりと頑張ってもらいたい……と願っている保護者の方は少なくないでしょう。しかし今どきの大学を、自分たちの時代と同じようにとらえてはいけません。少子化とグローバル化の中で大学はすっかり変わっているだけでなく、これからもっと劇的に変わらうとしているのです。お子さんたちの受験期の2017年には「劇的な大学改革」が席卷していることでしょう。これから述べることは、すでに進行中の現実なのです。

文/渡辺敦司(教育ジャーナリスト)

## 大学改革の要因1

### 「18歳人口減」

保護者世代といえど共通の試験の最後世代か大学入試センター試験の始まったころに学生だったという方が多いのではないだろうか。主な大  
学入学年齢である18歳の人口は92年度(2005万人)をピークに減少期に入り、今では123万人(2013年度)とピークの6割程度に縮小。90年度に500校を突破した大学数は短大からの転換もあって、みるみる増えて今や782校に上ります。当時、大学・短大に進学するのは同世代の3人に1人程度でしたが、今や2人に1人です(進学率49.9%※)。  
注意しなければならないのは、新しく増えた大学に入りやすくなっただけではなく、トップクラスの大学にもその影響が及んでいることです。

## 18歳人口自体が減れば、それだけ

学力上位層の絶対数も少なくなるのは必然です。難関大学も入学定員を減らさない限り、昔より幅広い層の学生を入学させなければなりません。国立大学でさえ、かつての

人気や名声にあぐらをかいては地盤沈下が避けられません。かえって新興大学の方が改革に取り組みやすく、先進的な教育で社会から高く評価されていることも珍しくありません。「そんな大学、聞いたこともない」と一概に新興大学を否定してはわが子の志望先を見誤ってしまうことになります。

## 大学改革の要因2

### 「グローバル化」

今や「グローバル化」という言葉を見聞きしない日はありません。保護

者の方々もお勤めの会社が海外展開に乗り出すなど、グローバル化と無縁ではない方も少なくないことでしょう。わが子にもグローバル人材になつてほしい、そのために有利な大学に入つてほしい……と思つていらつしやる方もいるかもしれません。

大学も今、グローバル化への対応が大きな課題になっています。例えば毎年、大学の国際ランキングが話題になります。関係者にとっては単なる恒例ニュースではありません。グローバル化で国境の敷居がますます低くなる中、今世界の大学は優秀な研究者や学生の獲得競争にしのぎを削っています。ランキングはそうした動向に大きく影響を与えるため、世界中の有名大学がランクを一つでも上げようと必死です。

日本では憧れの東京大学でさえ、世界的に権威のある英国の高等教

育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)のランキングでは23位(2013・14年版)。意外に振るわない理由は、留学生数や外国人研究者数など国際化指標の弱さと指摘されています。そこで東大はグローバル化を一気に進めようと、世界の多くの大学と層を同じにするべく「秋入学」への移行を2年前に公表。ところが昨年、二転して見送ることを発表しました。理由は、就職資格試験といった日本の社会システムと整合性を取ることが難しかったためですが、代わりに「4学期制導入」を決定。2015年度末までに全学部で導入するとしています。これにより今後、秋入学制を採用する海外の大学とも行き来がしやすくなる「4学期制」が日本の多くの大学に広がっていくことが予測されています。

また、国も大学のグローバル化を

※大学・短大進学率/「学校基本調査」文部科学省(平成25年度)

図1 2012年度  
グローバル人材育成推進事業  
採択事業一覧(文部科学省)

タイプA(全学推進型)

①北海道大学 [国立] / ②東北大学 [国立] / ③千葉大学 [国立] / ④お茶の水女子大学 [国立] / ⑤国際教養大学 [公立] / ⑥国際基督教大学 [私立] / ⑦中央大学 [私立] / ⑧早稲田大学 [私立] / ⑨同志社大学 [私立] / ⑩関西学院大学 [私立] / ⑪立命館アジア太平洋大学 [私立]

タイプB(特色型)

①筑波大学 [国立] / ②埼玉大学 [国立] / ③東京医科歯科大学 [国立] / ④東京工業大学 [国立] / ⑤一橋大学 [国立] / ⑥東京海洋大学 [国立] / ⑦新潟大学 [国立] / ⑧福井大学 [国立] / ⑨神戸大学 [国立] / ⑩鳥取大学 [国立] / ⑪山口大学 [国立] / ⑫九州大学 [国立] / ⑬長崎大学 [国立] / ⑭愛知県立大学 [公立] / ⑮山口県立大学 [公立] / ⑯北九州市立大学 [公立] / ⑰共愛学園前橋国際大学 [私立] / ⑱神田外語大学 [私立] / ⑲亜細亜大学 [私立] / ⑳上智大学 [私立] / ㉑昭和女子大学 [私立] / ㉒東洋大学 [私立] / ㉓法政大学 [私立] / ㉔武蔵野美術大学 [私立] / ㉕明治大学 [私立] / ㉖創価大学 [私立] / ㉗愛知大学 [私立] / ㉘京都産業大学 [私立] / ㉙立命館大学 [私立]

※「タイプA(全学推進型)」は大学全体で事業を推進。  
「タイプB(特色型)」は特定の学部・研究科が事業を推進。

強力に後押ししています。「グローバル人材」の育成を積極的に推進する大学に対して財政支援を行う「グローバル人材育成推進事業」を2012年度に開始。42大学が採択され、事業がスタートしています(図1)。

大学改革の今後1  
「アクティブラーニング」

「できるだけ楽勝科目を選んで時々代返を頼み、試験前にはノートをコピーして一夜漬け、単位を積み上げれば卒業できる」……なんて学生生活をお子さんが送れると思ったら大間違いです。今どきの学生はまじめに授業に出席するのが当たり前なのだそうですが、今やまじめに座っているだけでは済まなくなりつつあります。その代表例が「アクティブラーニング(能動的学修)」と言われる授

業形態で、時には教室を飛び出したフィールドワークや討論、発表などを通して、社会で活躍できる力を授業の中で身につけさせようというものです。

重要なのは、アクティブラーニングが決して単発のものではないことです。いま多くの大学では4年間の学部教育を通して専門知識はもとより社会に出てから求められる力を育成しようとカリキュラムを大幅に変えようとしており、その重要な役割を担うものとしてアクティブラーニングを所要所に埋め込んでいくところにいるのです。

背景にあるのは、大学の危機感です。小社が昨年全大学を対象に行なった「入試制度に関する学長調査」によれば、「学生の学力」について課題であると回答した大学は85%。「学生の意欲」も71%の大学が課題と回

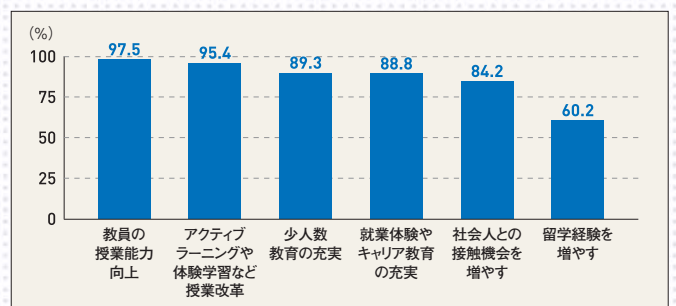
答しています。それらを念頭に「入学後に主体性を育てる方法」を尋ねたところ、「教員の授業能力向上」や「アクティブラーニングや体験学習など授業改革」を行っていくと回答した大学が実に9割以上にのぼりました(図2)。大学の授業は、これからますます変化していきそうです。

大学改革の今後2  
「三位一体改革」

一世を風靡した小泉政権の話ではありません。文部科学省の中央教育審議会(中教審)や政府の教育再生実行会議が進めようとしている、大学教育・高校教育・大学入試の一体改革のことです。

教育再生実行会議は昨秋、「大学入試センター試験」を変更し、「二点刻みの一発勝負型の入試ではなく、生徒を総合的に評価する」達成度テスト(仮称)の導入を大学側に求める提言を発表しました。しかし、実現はどんなに早くても5年先といえますから、今の高校生には関係なさそうです。けれども、そうした大学入試改革の提案は、首相や文部科学相の思い付きでも何でもなく、社会や企業、世界からの「プレッシャー」にさらされている大学側、とりわけ伝統的な大学の危機感から出てきた

図2 大学入学後に学生の主体性を育てる方法(複数回答)



出典：入試制度に関する学長調査2013(リクルートカレッジマネジメントと東京大学両角亜希子准教授調べ)

ものです。安西祐一郎中教審会長(前慶應義塾長)の言葉を借りれば「大学改革は待たなし」であり、もちろん今の高校にも無縁ではありません。

その大学でどんな教育が行われており、それが自分の子どもを伸ばせるかを見極める目が、いま保護者に求められています。今や大学はどこも同じではありませんし、偏差値が高いほど安心できるわけでもありません。入り口(入試)の難しさよりも出口(卒業後)でどれだけ力を伸ばせたかの評価が、その大学の評判を決める時代に突入しているのです。